

■尾瀬ビジョン改定における生の意見集

1. 「尾瀬がめざす姿」に関することについて

※紙面の都合上、「意見の概要」はご発言の趣旨を損なわない範囲で要約しています。

No.	分類	意見の概要	発言者の属性		
1-1	尾瀬がめざす姿	尾瀬は特殊な場所であると思っている。他の国立公園と同じようにしていきたいのか、違うものを目指していきたいのか、目指すべき方向性が曖昧になっている感じがする。	交通事業者		
1-2	尾瀬がめざす姿	いつの時代の尾瀬を目指しているのか分からない。尾瀬が開山される前の状態が一番高い目標で、最低目標はシカによる影響が出てくる前の状態と思う。	宿泊業関係者		
1-3	尾瀬がめざす姿	地域域の活性化	地域域の活性化	尾瀬地域の人口減少や高齢化は、尾瀬の保護や利用に関して様々な問題を生み出すと思われます。人が住まない所に「尾瀬」という価値あるものだけが存在することはあり得ないので、しっかりと地域運営が最も必要だと思います。	宿泊業関係者
1-4	尾瀬がめざす姿	地域域の活性化	尾瀬地域の経済をどう維持発展させていくかについても議論する必要がある。	尾瀬サミット	

2. 「みんなの尾瀬」に関することについて

No.	分類	意見の概要	発言者の属性	
1-1	尾瀬のファンづくり	尾瀬ビジョンの「みんなで守る」ということについて必要と感じるのは、お客様の尾瀬への愛着心だと考えている。そのために、山小屋で快適に過ごせることや、木道が整備されていることなどが大切。また一昔前のイメージを持っているお客様も多い。お風呂があることに驚くお客様もいる。みんなで変えていくことが必要。	宿泊業関係者	
1-2	尾瀬のファンづくり	尾瀬へのアクセスが容易であればあるほど小屋泊が減り日帰りが多くなる現実があります。さらに、啓発機会を逸していることにもなっていると思います。尾瀬への正しい理解とマナーをもったリピーターを増やすことは、その1人1人が広告塔となり、やがて大きな効果をもたらすと考えます。次回は、友人・知人、職場の同僚を同伴しながら自信をもって尾瀬を語ってくれることでしょ。尾瀬の蘊蓄が得られれば、リピーターには次に訪れる動機となり楽しみにつながると思います。	研究者	
1-3	尾瀬のファンづくり	尾瀬を愛するリピーターをしっかりと育てていくことが大事。そのためにはまず1回来てもらうきっかけが必要。	尾瀬サミット、宿泊業関係者	
1-4	尾瀬のファンづくり	尾瀬ファンクラブを作って、尾瀬に関心を持ってくれる人を増やした方がよい。	観光協会	
1-5	尾瀬のファンづくり	人口が減っている中では、1度来た入山者をいかに2回、3回と繋げられるか意識啓発できるかが大切だと思う。	観光協会、アウトドア業界関係者	
1-6	尾瀬のファンづくり	滞在型・宿泊型の促進	山小屋が独自に人を呼ぶ努力をして欲しい。それぞれの小屋で独自性を出して欲しい。	請負業者
1-7	尾瀬のファンづくり	利用者の満足度を高めることが必要。	交通事業者	
1-8	尾瀬のファンづくり	入山者の満足度は、現場の山小屋やガイドなど事業者の接し方に大きく左右されると思う。もっと尾瀬の知識を付けるなど利用者サービスの質を上げなければならない。	宿泊業関係者、交通事業者	
1-9	尾瀬のファンづくり	若い世代を呼びたいが、若い世代も少なくなっているから大変である。	宿泊業関係者	
1-10	尾瀬のファンづくり	これからの社会を考えると、尾瀬を保護保全するには若い世代の参加が必要だと思います。自分と尾瀬の関わりを考えると、学生時代に経験したサプレんジャー制度が生きています。無くなって残念です。若い世代が参加しやすい環境や機会を是非作って欲しい。	ボランティア	
1-11	尾瀬のファンづくり	認知度の向上	もっと若い世代が来るように尾瀬の魅力を発信したり、小中学生・家族での尾瀬散策への助成があると良い。	宿泊業関係者、一般利用者
1-12	尾瀬のファンづくり	調査研究の促進	若者の誘致のため、尾瀬を学生の調査・研究のフィールドとして、もっと活用した方が良いのではないかと。	尾瀬サミット、宿泊業関係者
1-13	尾瀬のファンづくり	認知度の向上	ファミリー層をターゲットにしたらどうか。学生の山岳部などを狙ってみるのはどうか。	宿泊業関係者
1-14	尾瀬のファンづくり	認知度の向上	親世代に自然や尾瀬への関心を持たせることが、子ども達を呼ぶためには重要。	尾瀬サミット
1-15	尾瀬のファンづくり	認知度の向上	歳を重ねてからまた尾瀬に行きたいと思わせるためには、若い時に一度尾瀬に呼んでおく必要がある。	宿泊業関係者
1-16	尾瀬のファンづくり	外国人への対応	外国人対応で重要なのは、受け入れ体制を整えること。闇雲に呼んでも定着しない。	観光協会、旅行業関係者
1-17	尾瀬のファンづくり	ルール・マナーの検討・普及啓発	外国人はマナーの問題など課題は多い。来なくてもいい。静かな方がいい。	宿泊業関係者
1-18	尾瀬のファンづくり	ルール・マナーの検討・普及啓発	積極的に受入れを進めており、独自の英語表記の受付表でマナー啓発を行っている。	宿泊業関係者
1-19	尾瀬のファンづくり	外国人への対応	外国人への対応で決定的な手法はない。HPやパンフレットなどの多言語化など、地道な活動がほとんどだと思う。	旅行業関係者
1-20	尾瀬のファンづくり	外国人への対応	外国人は、小屋・テント泊とも少しずつ増えて来ている。言葉で不便を感じたことはないが、受入体制の整備やマナー啓発を進める必要がある。	宿泊業関係者
1-21	尾瀬のファンづくり	外国人への対応	山小屋は不便さも良さの一つだと思うが、相部屋を嫌がるなど客層のニーズも変わっている。	地域住民
1-22	尾瀬のファンづくり	外国人への対応	尾瀬の利用者は、「山小屋」だということを理解していない。旅館・ホテルのような期待をしてくる。	宿泊業関係者
1-23	尾瀬のファンづくり	外国人への対応	昔に比べて、宿や施設を楽しみにしている人が増えた印象がある。昔は、泊まれば良いという考えが多かった印象。	宿泊業関係者
1-24	尾瀬のファンづくり	外国人への対応	外国人は、宗教上の理由で食事メニューを変えたりしなければならないこともたまにある。	宿泊業関係者
1-25	尾瀬のファンづくり	認知度の向上	インターネットなどで情報を得ている外国人は、簡単に尾瀬に行けると思っていたり、旅館でもりっぱなホテルの様な内容を安い料金プランで求めているので、なかなか対応が難しい。	宿泊業関係者
1-26	尾瀬のファンづくり	外国人への対応	留学生のような日本のマナーを知っている人に来てもらうことで、母国へも正しい情報が伝わるようになると思う。	尾瀬サミット
1-27	尾瀬のファンづくり	外国人への対応	訪日客を呼び込みたい国などと、実際に対応する現場の温度差があるので難しい。	観光協会
1-28	尾瀬のファンづくり	施設の整備	富士見峠を身体障害者でも気軽に楽しめるようにするには、バリアフリー化などの施設整備が必要。また、2本木道では車椅子が利用できないので、木道をワイド化すれば身体障害者に優しい尾瀬にできる。	地域住民
1-29	尾瀬のファンづくり	施設の整備	障害のある人や高齢者をヘリで送迎するなど、入山が困難な人への支援体制（ヘリポート整備、旅行会社との連携など）	一般利用者

No.	分類	意見の概要	発言者の属性
1-30	尾瀬のファンづくり	聴覚障害の方が仲間と会えず困っている時があった。伝言板のようなものがあっていいと思う。まだまだ尾瀬の対応は遅れている。	交通事業者
1-31	尾瀬のファンづくり	施設整備 障害者にとっても優しい尾瀬であって欲しい。年をとってもずっと来られる尾瀬でありたい。	尾瀬サミット
1-32	尾瀬のファンづくり	入山者数が減っているのに、尾瀬をゆったりと楽しめる環境があるということも言えるのではないかな。	旅行業関係者
1-33	尾瀬のファンづくり	もう昔のように入山者が大勢来る時代は来ないと思うので、適正な数を安定的に来てもらえるようにした方がいい。	宿泊業関係者
1-34	尾瀬のファンづくり	尾瀬が人に来て欲しいと思っているのかいないのか見えて来ないので、地域の考え方をしっかりまとめて欲しい。	旅行業関係者
2-1	尾瀬で学ぶ機会の拡大	自然保護の理解者を増やす必要がある。そのためには、より多くの人に尾瀬を知ってもらうことが重要であり、尾瀬の自然を見て学ぶ環境の整備が必要です。	宿泊業関係者
2-2	尾瀬で学ぶ機会の拡大	尾瀬も社会への貢献を考える必要があり、そのためには、ただ来て帰るだけでなく、自然保護の理解者になってもらえるよう努力しなければならない。	地域住民
2-3	尾瀬で学ぶ機会の拡大	自然を守るためには、まず来て見てもらうことが必要。自然を見て圧倒されれば、きっと自然を守る意識が芽生える。	旅行業関係者
2-4	尾瀬で学ぶ機会の拡大	普段自然に触れられていない人が来た時に、しっかり自然との接し方を学べる場作りが大切だと思う。	地域住民
2-5	尾瀬で学ぶ機会の拡大	もっと校長先生を動かして、環境教育としてもっと子どもたちを呼んだ方がいい。	宿泊業関係者
2-6	尾瀬で学ぶ機会の拡大	各県で環境教育を進めているが、そうした取り組みは今後も重要である。	尾瀬サミット、宿泊業関係者
2-7	尾瀬で学ぶ機会の拡大	尾瀬での環境学習については、学校の先生方も尾瀬の素晴らしさは認識しているけれども、自然を守るために採ったり食べたりができないので、教育の観点からすると、他の場所で魚取り・虫取りをさせた方がいいという考え方があると聞いている。	観光協会
2-8	尾瀬で学ぶ機会の拡大	今の状態の保護だけでは、尾瀬への関心が薄れてしまう。環境省の職員により、尾瀬の（魅力）植物について小中学生に伝え、関心を深めさせて欲しい。	宿泊業関係者
2-9	尾瀬で学ぶ機会の拡大	自然保護については、若い人が若い人に伝えた方が伝わりやすいと思う。	尾瀬サミット
2-10	尾瀬で学ぶ機会の拡大	資金的サポートの呼びかけ 尾瀬保護財団などに寄付している企業の社員研修・家族旅行の場に使ってもらえたら良い。	尾瀬サミット
2-11	尾瀬のファンづくり	多様な主体の参加と連携促進 専門学校生や大学生を尾瀬に呼ぶ工夫として、ボランティア活動とセットにすると良いと思う。	尾瀬サミット
2-12	尾瀬で学ぶ機会の拡大	エコツーリズムの推進 単なるツアーではなく、プレミアムツアー（“上質な”ということと“特別なα”という意で）を積極的に企画するのも良い手だと思います。泊を伴い入山口から下山口まですべてに有識者などが同行し解説するというものなどです。これは営業ではなく、自然を理解し保護・保全の観点や方策を広める啓発のためのもので、小屋の夜は、講師の仕事や研究の紹介、尾瀬に関するフリートークなどもあつたりします。実施は、春、夏、秋の3回で1回20名程度でしょうか。これはあくまで拙案ですが、従来の既成概念にとらわれることなく、様々なアイデアで取り組みの幅を広げる努力は必要に思います。業者の営業を妨害するようなものではなく、営利目的ではなく啓発目的ですから問題もないと思われます。	研究者
2-13	尾瀬で学ぶ機会の拡大	地元の子どもの自然環境への保護意識はかなり強く、優れた点だと思う。子どもたちへの環境教育の成果だと思う。	宿泊業関係者
2-14	尾瀬で学ぶ機会の拡大	先進的な取組の推進 人々に尾瀬を例とした正しい自然への理解をいただいて、人為による介入、破壊を極力抑制するという不断の努力を続けなければなりません。尾瀬は、自然保護・保全のモデルとしてハイレベルな意識と実践を展開するフィールドであってほしいと願っています。	研究者
3-1	先進的な取組の推進	尾瀬は、日本における自然保護・保全の先駆的役割を果たしてきたと言われており、関係者にはその自負もあると思います。しかし、保護・保全の課題は今や全国的なテーマであり、様々な取り組みが行われています。中には先進的な取り組みもあり、尾瀬地域が做すべき事例もあります。こうした取り組みも全国各地域、各地が個別に実践しているだけで、成果を他所で生かす努力は行われていません。課題や取り組みを共有して、効率的な保護・保全を実施する仕組みを構築したいものです。尾瀬はその中心的存在として今後もリードして欲しい。	研究者
3-2	先進的な取組の推進	木道のリサイクルも考えた方がいいのではないかな。	宿泊業関係者
4-1	多様な主体の参加と連携促進	お客さまの意見を集める工夫が必要。	尾瀬認定ガイド
4-2	多様な主体の参加と連携促進	現場にいる人から自動的に課題や情報がまわってきて、すぐに対応できるものは対応し、話し合いが必要なことについては話し合う仕組みづくりが必要。	宿泊業関係者
4-3	多様な主体の参加と連携促進	管理運営などアイデアを出してもらおうコンペなどを実施したらどうか。	請負業者
4-4	多様な主体の参加と連携促進	3県が連携し、尾瀬を縦断して下山した先の観光案内や宿泊案内、交通案内がスムーズにできる体制作り。	宿泊業関係者
4-5	多様な主体の参加と連携促進	関係自治体、団体、事業所、民間の連携と協力	宿泊業関係者
4-6	多様な主体の参加と連携促進	行政ができることも限界があるので、自分たちで考えていかなければならないことを認識すべき。	宿泊業関係者
4-7	多様な主体の参加と連携促進	担い手の育成 地元の人と尾瀬の関わり方が希薄になり地元の間でも尾瀬に行かなくなっている。	地域住民、宿泊業関係者
4-8	多様な主体の参加と連携促進	世代交代や経営譲渡などで、山小屋間の付き合いが希薄になってきている。山小屋組合のあり方も見直す時期にあると思う。定期的な意見交換の場を作った方がいいのではないかな。	宿泊業関係者
4-9	多様な主体の参加と連携促進	地元市町村が「地元」意識が薄いと感じるので、各市町村が連携した取り組みを実施した方がいい。	宿泊業関係者
4-10	多様な主体の参加と連携促進	大人が知識を得る環境が少ないので、尾瀬を地元と認識できるような働きかけが大事だと思う。	宿泊業関係者
4-11	多様な主体の参加と連携促進	多くの人に尾瀬や自然と自分との繋がりを感じてもらえるようにできるとよい。	地域住民

No.	分類	意見の概要	発言者の属性
4-12	多様な主体の参加と連携促進	尾瀬のリピーターの中にはボランティアとなると敷居が高いし、もっと自由に尾瀬に貢献したい人もいますし、地元自治体に協力したい人もいます。尾瀬を核としてそのような人々を地域サポーターとして活躍の場を提供することで、他の尾瀬入山者への啓発につながりますし、村おこしにも役に立つと思います。	研究者
4-13	多様な主体の参加と連携促進	イベントで沼山峠からビジターセンター/ビジターセンターから沼山峠などトンカチを貸与して登山者に木道を修理してもらうようなもの。	一般利用者
4-14	多様な主体の参加と連携促進	もっと参加型・体験型の事業を増やすのもよいと思っています。たとえば、「もし至仏山の登山道整備に多くの石が必要だとすれば、登山者の自由意思に基づいて大小様々な大きさ重さの石の中から1個ずつを現地まで運び上げてもらう」というようなことです。誰でも参加しようと思えば手軽にでき、後には成果が目に見える形で残り、保護意識の向上や記念にもなるうかと思えます。	研究者
5-1	担い手の育成	尾瀬地域は、半年間の仕事が多いため、安定的に働ける環境が非常に少ない。	地域住民、交通事業者
5-2	担い手の育成	若い人が帰って来て活躍できる環境が必要です。	宿泊業関係者
5-3	担い手の育成	地域が少子高齢化・過疎化しているので、この現状を打破しないと尾瀬を守れない。担い手として、外国人留学生などの導入も検討する必要があるかもしれない。広い視野で見えていき、若者が沢山住み着くような尾瀬エリアにする必要がある。	宿泊業関係者
5-4	担い手の育成	担い手として、ボランティアの存在は大切に思う。	ボランティア
5-5	担い手の育成	担い手不足に伴い、これまで山小屋が果たしてきた役割を果たせなくなっている。	尾瀬サミット、宿泊業関係者
5-6	担い手の育成	高齢化もあり運転手が減っているのを将来を考えると非常に不安である。マイクロバスで一人あたりの送客数を上げる必要もあると思	交通事業者
5-7	担い手の育成	利用者と接する機会の多い交通事業者が高齢化しており、色々と対応できなくなっているのでコンシェルジュ的な人を配置した方がよ	交通事業者
5-8	担い手の育成	利用者・宿泊者・地域住民まで高齢化しているので、その世代がいなくなると来る人がいなくなるのではないかと	地域住民
5-9	担い手の育成	尾瀬の歴史を伝える人たちは高齢化しているので、次世代に繋ぐ必要がある。	尾瀬認定ガイド
5-10	担い手の育成	若者に働いてもらうためには、通信環境などの整備は必要。	宿泊業関係者
5-11	担い手の育成	尾瀬のイメージをアップしていかないと人は集まって来ない。	宿泊業関係者
5-12	担い手の育成	入山者がそのまま減っていくと、働いてくれる後継ぎが居なくなる。ガイドも高齢化していて、これから先については不安がある。	宿泊業関係者
5-13	担い手の育成	先人の持つ専門的な知識・経験をいかに次の世代にバトンタッチするかが課題である。	尾瀬サミット、観光協会
5-14	担い手の育成	登山人口が減少している中で、知識や経験の少ない利用者の増加や登山技術が継承されなくなっている。	尾瀬サミット、宿泊業関係者
6-1	資金的サポートの呼びかけ	財政状況が厳しくなる中で、広く社会に呼びかける新たな仕組み作りの検討が必要。	尾瀬サミット
6-2	資金的サポートの呼びかけ	入山料は考える必要はあると思うが、入山者の減少が懸念されるので厳しい。	宿泊業関係者
6-3	資金的サポートの呼びかけ	入山料を導入するのであれば、尾瀬を訪れた記念になる物を渡せると良い。	宿泊業関係者
6-4	資金的サポートの呼びかけ	入山料などでトイレの協力金を回収する方法にして欲しい。お金の出し入れが山だしにくい。	一般利用者
6-5	資金的サポートの呼びかけ	目的がはっきりしていれば、入山料に対して入山者が文句を言うことは少ないと思う。問題なのは、そのお金をどう割り振るかだと思	宿泊業関係者、マスコミ関係者
6-6	資金的サポートの呼びかけ	施設整備	尾瀬サミット
6-7	資金的サポートの呼びかけ	維持管理の費用面の問題が一般利用者には聞こえていないので、広く知ってもらった方が良い。	一般利用者
6-8	資金的サポートの呼びかけ	公共予算は年々減少しているようなので、会津駒ヶ岳の木道のようにお金を集める方法が必要。	請負業者
6-9	資金的サポートの呼びかけ	入山料を聴取してもツアー客は減らないと思う。仮に入山料を徴収することになった場合には、それに対するお返し（タオル+地図など）があると良い。徴収額は、日帰り1,000円以下として欲しい。	旅行業関係者
6-10	資金的サポートの呼びかけ	入山料の導入にチャレンジしてみてもよいのではないかと。今後の国立公園のモデルケースになり得る。	アウトドア業界関係者
7-1	認知度の向上	尾瀬のブランディングをしっかりと考えた方がよいと思う。	アウトドア業界関係者
7-2	認知度の向上	尾瀬ブランドは従来よりも人々には食傷気味となっているのではないのでしょうか。イメージの更新や新しい尾瀬の顔（シンボル）を考える時期に来ているような気がします。	研究者
7-3	認知度の向上	尾瀬のブランド力は、「歴史」「自然保護」が売りだと思うが、そうすると年齢層が高くなる。	宿泊業関係者
7-4	認知度の向上	ニッコウキスゲ以外の花のPRを進めても良いのではないかと。	宿泊業関係者
7-5	認知度の向上	まず来て知っていただかないと意味がない。上高地をモデルにしても良いのではないかと。	宿泊業関係者
7-6	認知度の向上	尾瀬を知ってもらうためには、テレビの活用は効果が大いと思うが、逆にテレビを見る人も減ってきている。	宿泊業関係者
7-7	認知度の向上	尾瀬の「聖地」感を大切にしつつも、ある程度気楽に来れるイメージも必要。	観光協会
7-8	認知度の向上	尾瀬保護財団ブログに尾瀬の情報を流してくれるのは有り難いが、山の鼻と尾瀬沼が同じ所で発信されているので、別々に分けて、個々の情報がまとめて見れる様にしてほしい。	一般利用者
7-9	認知度の向上	メディアに取り上げてもらいやすいことを考えて実施する。	アウトドア業界関係者
7-10	認知度の向上	田代山は、国立公園に編入されたがまだまだ認知度は低い。	観光協会
7-11	認知度の向上	施設整備	地域住民
7-12	認知度の向上	登山口でその季節の尾瀬の草花の簡易なガイドなどが配布されていると歩きながら楽しんで良い。	一般利用者

No.	分類		意見の概要	発言者の属性
7-13	認知度の向上	地域における利用の役割分担	尾瀬のピークと村のピークを分けて売っていきたい。通年人が来るのが理想。尾瀬の人が少ない時は村に人を呼ぶ。	観光協会
7-14	認知度の向上		檜枝岐村は栃木や茨城などの関東が7割を占めるので、そこら辺をターゲットに狙っている。	観光協会
7-15	認知度の向上		アヤマ平の湿原から見る。至仏山・燧ヶ岳・日光白根山の姿に感動しました。もっと積極的にPRした方がいいと思いました。	一般利用者
7-16	認知度の向上		日本100名山など山をもっと売る出した方がいい。しかし、登山道の改善は必要。	宿泊業関係者
7-17	認知度の向上		夏休みを家族で過ごすような売り方もいいかもしれない。	宿泊業関係者
7-18	認知度の向上		家族で楽しめるといった切り口はありだと思う。	アウトドア業界関係者
7-19	認知度の向上		SNSでの情報発信はやった方がいい。関係者が頑張るより利用者から発信してもらった方が受け入れやすい。	尾瀬サミット、宿泊業関係者
7-20	認知度の向上	施設の整備	携帯電話の新たな利用としては、ICタグの利用などの可能性がある。	宿泊業関係者
7-21	認知度の向上	施設の整備	携帯電話が通じることが悪になっているが、ネット環境や携帯電話が通じ、マナーを周知することが大切。	宿泊業関係者、地域住民
7-22	認知度の向上		他の観光地を参考に自然が好きの人、山野草マニアなどに加え、歴史マニアなどをターゲットとしたストーリーも考える必要がある。	宿泊業関係者
7-23	認知度の向上		「尾瀬」というものがどこにあるのかという情報発信が不十分に感じている。	宿泊業関係者、一般利用者
7-24	認知度の向上	望ましい交通アクセスの検討	尾瀬へのアクセスが分からないと言われたことがあるので、関係機関が協力してPRすることが必要。需要が増えれば、本数が増えたりして利便性が上がると思う。	尾瀬サミット
7-25	認知度の向上	望ましい交通アクセスの検討	交通のアクセスをネットで調べても色々ページに飛ばなければいけないので情報が一括されていて、言葉ではなく図で簡単な物を作って欲しい。友達に勧めたいが、行き方が分かりにくいので伝えるのが難しいです。	一般利用者
7-26	認知度の向上		「どんな計画で尾瀬に来ることができるのか」しっかり個人客向けに発信していくことが必要だと思う。	交通事業者
7-27	認知度の向上	滞在型・宿泊型の促進	山小屋は初めてでしたが、どこも綺麗で想像と違った。なかなか登山、ハイキングをしたことがない人だと行きづらいイメージがある	一般利用者
7-28	認知度の向上		トイレチップ制度など、地元にも知らない情報が多い。	消防署
7-29	認知度の向上		尾瀬の森林の役割をPR	尾瀬認定ガイド
7-30	認知度の向上	滞在型・宿泊型の促進	閑散期と言われる時期の魅力を見つけて、発信することが大切。	尾瀬サミット
7-31	認知度の向上		登山道に良い名称を付けることができれば、より親しみやすくPR効果も高まると思う。言葉や歌の力は大きいので、良い言葉があれば伝わり方は大きく違ってくると思う。	尾瀬サミット
7-32	認知度の向上		楽しむということはDMO的な視点が必要であり、関係者間の統一的な取り組みが必要。	尾瀬サミット
7-33	認知度の向上		宿泊型のPRは重要であるが、日帰りも日帰り一つのニーズなので、対応していくことが必要。	尾瀬サミット
7-34	認知度の向上		ロングトレイルという考え方も人気なので、よいルートがあればモデルコースを出して発信するのも良いと思う。	宿泊業関係者
7-35	認知度の向上	多様な利用方法の検討	今までマイナーだったルートのモデルコースを紹介し、登山者レベルに合わせた新たな尾瀬の楽しみ方を提案するのの一考でしょう。この意味で富士見小屋の閉鎖は、稜線通しの中継・休憩地やエスケイブルートの起点として重要であっただけに痛いです。	研究者
7-36	認知度の向上		尾瀬沼や尾瀬ヶ原までのルート（初心者～上級者レベルごと）が描かれた地図が無料でもらえるとうれしいです。	一般利用者
7-37	認知度の向上	施設の整備	20～30代の若者が尾瀬に遊びに来るようにビジターセンター周辺の魅力の整備や魅力の発信	宿泊業関係者
7-38	認知度の向上	尾瀬の魅力向上	若い人は美味しい食べ物に弱いため、お土産や名物のPRを増やすと良い。	尾瀬サミット
7-39	認知度の向上		尾瀬の紅葉は素晴らしいと思っているが、最近は東北（特に栗駒）が人気である。尾瀬のPR不足でないかと思っている。	旅行業関係者
7-40	認知度の向上		一般の方に、尾瀬について、正しい知識を持って知ってもらうこと。（バスをおいたら木道と湿原が広がっているのは間違いで、必ず峠を越えて入らないといけない。湿原に敷かれている木道設置の意味。なぜ国立公園に指定されているのか。特別保護地区である理由など。）次に気軽に行ける高原ではなく、山であることを認識してもらい、それなりの装備で入山してもらうこと。	ボランティア
7-41	認知度の向上		野生動物対策については、もっと情報を広く提供していくべきであり、なぜ鹿柵を設置しているのか、設置場所に明文化したものを掲示するなど（イマドキであれば、QRコード読み取りも可）して、一般利用者にもわかりやすく理解してもらえる情報提供をしていただきたい。	ボランティア
7-42	認知度の向上		あまりスマホなどを見て歩かれるのも問題ですが、「尾瀬アプリ」を開発して、登山地図機能（現在地も表示）、現地の気温や気候がわかる天気予報の情報提供、看板に設置してあるQRコードを読み込めば動植物や地名などの情報が入手できたりするのもよい。	ボランティア、一般利用者
7-43	認知度の向上		ガイドやボランティア、乗合タクシー内を活用した入山前レクチャーの実施	尾瀬認定ガイド、交通事業者
7-44	認知度の向上		旅行者と協力して、途中のバス内で、どこでどんな話して参加者を盛り上げたらよいかレクチャー資料を作成してはどうか。	アウトドア業界関係者
7-45	認知度の向上	ルール・マナーの検討・普及啓発	尾瀬について紹介するネット情報を正しいものとする、旅行会社はパンフレットに明記すること、シャトルバスや旅行会社の車内で正しい知識の教育を行うなどとして、安易な入山を防ぐようにしてほしい。	ボランティア
7-46	認知度の向上	施設の整備	登山道の通行止めの情報などはネット環境が整えばメーリングリストをリアルタイムで送って欲しい。	宿泊業関係者
7-47	認知度の向上		九州や関西の人達の話や尾瀬への憧れや関心が高いことが分かる。そうした人達をターゲットとするのも検討してみてもどうか。特に、魚沼からのルートは、関西や北陸からのツアー客に対しては、開拓の余地があると思う。	マスコミ関係者
7-48	認知度の向上	多様な主体の参加と連携促進	関係機関が、尾瀬に関する地図を作成している。各々の団体や機関によって少しずつコンセプトが違うのだと思うが、経費を出し合い同じ地図を作成し、浮いた経費をPRコストに充てるなど検討をしてもいいのではないか。	マスコミ関係者
7-49	認知度の向上		尾瀬の魅力をどうしていきたいか、ターゲットとして何を指していくのかなどを示してもらい、それに合わせるような形で事業者が事業展開していけば、うまくまわっていくと思う。	交通事業者
7-50	認知度の向上	尾瀬のファンづくり	尾瀬のネームバリューの低下があるので、新しい層を開拓しなければならない。	宿泊業関係者、観光協会

No.	分類	意見の概要	発言者の属性	
7-51	認知度の向上	「尾瀬を守る」ためには、もっと多くの人に尾瀬を知ってもらうことが重要	尾瀬サミット	
8-1	情報の共有	尾瀬が取り組んでいる自然保護の取り組みをしっかりと再発信することも大事なのではないかな。	宿泊業関係者	
8-2	情報の共有	残雪期の木道の雪かきなどは、お客様にもっとPRした方が良いのではないかな。	旅行業関係者	
8-3	情報の共有	ライブカメラをもっと有効活用して、登山者に情報提供した方が良い	宿泊業関係者	
8-4	情報の共有	利用者の多くは、未だにオーバーユースのイメージを持っている。それは尾瀬にとってマイナスだと思う。	宿泊業関係者、地域住民	
8-5	情報の共有	ハイシーズンの混雑具合がインターネットでわかるとうれしいです。	一般利用者	
8-6	情報の共有	利用者の持っている尾瀬についての間違ったイメージの払拭が大切。	宿泊業関係者	
8-7	情報の共有	ルール・マナーの検討・普及啓発	尾瀬ヶ原の平らなイメージを植え付け過ぎた結果、軽装備の登山者が増えたと思う。	
8-8	情報の共有	入山者が減った一因として、土日が混むというイメージの植え付けがあると思う。未だに土日は混み合うと思っている人が多い。	地域住民、宿泊業関係者	
8-9	情報の共有	利用者には尾瀬の素晴らしさだけでなく、抱えている課題などの現状も知ってもらうことが大切	尾瀬サミット	
8-10	情報の共有	植生の荒廃対策	ニッコウキスゲは壊滅状態。お客様には、あまり期待させない方がよい。パンフレットやポスターとの乖離が大きく、お客様から苦情を言われることが多い。ニッコウキスゲが回復しても入山者が戻るかは疑問。	宿泊業関係者
9-1	基本情報の収集	これからの尾瀬を考える上では、マーケティングの視点も重要だと思う。	宿泊業関係者	
9-2	基本情報の収集	入込客数増加に向けたアイデア集やマーケティング戦略が必要	尾瀬認定ガイド	
9-3	基本情報の収集	地域活性化に向けたアイデア集が必要	尾瀬認定ガイド	
9-4	基本情報の収集	尾瀬関係者の定期的な研修会（他国立公園の取り組みの勉強会など）の開催が必要	尾瀬認定ガイド、宿泊業関係者	
9-5	基本情報の収集	様々な要因が考えられるが、入山者が減っている要因を分析するようなことも大切だと思う。	観光協会	
9-6	基本情報の収集	現在の尾瀬ビジョンに対する評価が必要。現状の評価がないと何が課題かということも言えない。	交通事業者	
9-7	基本情報の収集	尾瀬の受け止められ方を客観的にみるために、来ていただいた方の印象や希望をアンケート調査しては如何でしょうか。調査結果を処理するシステム（調査場所、処理、結果の公開、費用など）が容易ではないと思いますが、尾瀬に来た方の心を尾瀬についでおく効果もあるように感じます。		
9-8	基本情報の収集	どの程度の入山者数が適正なのか、考える必要があると思う。	地域住民	
9-9	基本情報の収集	客観的な分析に基づき、尾瀬への入山者をどういう形で、何人確保することを目標とするのか、関係者間で共通認識を持つことが重要である。それがないと対策やその評価を行うことができない。	マスコミ関係者	
9-10	基本情報の収集	現在抱えている諸問題が解決されることが一義的で、それなしには将来像や理想像を思い描いても、絵に描いた餅・希望的観測で終わってしまいます。したがって、それら諸問題を整理し、個々について現実的に則して正直に検討・分析・評価を行ない、解決できるか否かを含め、対応方法を検討すべきでしょう。これをしなければ、どうあるべきかが見えてこないと考えます。	研究者	

3. 「みんなで守る」に関することについて

No.	分類	意見の概要	発言者の属性	
1-1	貴重な自然環境の保護	「観光か」「保護か」という狭間でどちらを優先するかの議論に偏りがちになりますが、基本は“健全な自然があつての観光”です。保護が優先なのは自明の理ですから、このスタンスは貫かれなければなりません。どうしても当地や近隣地域には観光優先の意識傾向があつて、「死活問題」を持ち出されると寛容な判断になる傾向があると思います。地元などの意見や関係筋からの圧力も考えられますが、決して屈してはいけないポイントです。	研究者	
1-2	貴重な自然環境の保護	特別保護地区では保護することが主目的であり、利用の制限（登山者の立入人数制限）またガイド付きの義務付け、人工物の撤去等が必要。今は難しくても将来的にはそういった理念も必要ではないかな。		
1-3	貴重な自然環境の保護	山小屋のサービスがどんどん良くなっていますが、それは美しい景観を後世に伝え残そうとする尾瀬にはふさわしくないと考えています。入山者の要望に合わせる必要もなく、山を俗世間と同様にすることなく（サービスは過剰にせず）、総合的な尾瀬の自然と人々の共生の在り方を検討する時期に来ているのではないのでしょうか。実践につなげる会議を設置して3県関係自治体、山小屋などで足並みを揃えることも必要かと思えます。サービス競争（＝客取り）のようなことがあつては、「尾瀬」の目指す理念やビジョンには合わないのではないのでしょうか。	研究者	
1-4	貴重な自然環境の保護	利用と保護は表裏一体と考えます。私たちが感動する自然とは人工的なものではなく、まさに手付かずの自然です。私たちがやるべきことは自然を修復することではなく今の姿を守ることです。	宿泊業関係者、ボランティア、一般利用者	
1-5	貴重な自然環境の保護	尾瀬の静けさを守って欲しい。	尾瀬認定ガイド	
1-6	貴重な自然環境の保護	施設の整備	単純に考えれば花の減少や湿原への笹の侵入、下界の植物が侵入していることで湿原らしさがなくなってきたので、入山者が減少しているのではないかなと思う。尾瀬の映像や写真は、花のある湿原の木道を歩く様子がほとんどで、2000m級の山を越えて入山することが知られていないので、実際に入山すると大変と感ずることが多い。朽ちた木道、傾いて危険な木道など歩きにくいと感ずるためにマイナスのロコミがあるのではないかな。	宿泊業関係者
1-7	貴重な自然環境の保護	地域における利用の役割分担	基本的には尾瀬の自然全てを守るべきであつて、人間の利用に関するものがそれらに優先することがあつてはならないでしょう。入山規制なども必要かもしれませんが、地域性、自然の現状・評価、季節、時間、適正人数、登山に関する計画や技術・レベルなど細かく検討した上で、決めるべきではないでしょうか。	研究者

No.	分類	意見の概要	発言者の属性
1-8	貴重な自然環境の保護	尾瀬が、かつて人間によって荒廃してしまい、いまもって復元には至っていないという負の歴史を繰り返さないために、「尾瀬が日本の自然保護の原点である」ということをいままでも以上に強く発信するべきと思う。	
1-9	貴重な自然環境の保護	人間がお邪魔しているのだからこれ以上はほらない。	一般利用者
1-10	貴重な自然環境の保護	人気のある無しや大小に関わらず、尾瀬らしい植生を守ることが大切です。本州最大の高層湿原とそれを囲む山々の全体がバランスよく守られるべきです。	宿泊業関係者、ボランティア
1-11	貴重な自然環境の保護	尾瀬はその成り立ちからして国立公園の環境保護の先駆者となるべきです。そのためには平野長蔵をはじめとした多くの先人達が命を懸けて守った自然を残すことが重要です。貴重な自然を残すために最も必要なことは自然を汚す1番の加害者である人の入山を規制することです。尾瀬の観光地化には大反対です。	ボランティア
1-12	貴重な自然環境の保護	入山者（利用者）の利便性を優先して作られた施策、例えばノ瀬までのバスなどは見直すべきです。	ボランティア
1-13	貴重な自然環境の保護	尾瀬は人里と隔絶された奥山地域にあって、過去の開発との戦い・荒廃化との戦いの中で守られ続けてきた経緯があります。多くの登山者が求めるものは「歩いてこそ見ることが出来る「開山の頃と変わらぬ自然」だ」と思います。本物の自然だからこそ得られる体験は環境教育の資源としても高い価値を有しています。	研究者
1-14	貴重な自然環境の保護	尾瀬国立公園の中では小さなことかもしれないが、田代山山頂湿原の川衣木の崩壊対策を危機感を持って進めていただきたい。	観光協会、宿泊業関係者
1-15	貴重な自然環境の保護	笹ヶ岳周辺では、湿原への踏み込みや湯ノ小屋からのルートが湿原中を通過して裸地化しています。定期的な登山道などの巡視が必要でしょう。手当てできなくても、現状を把握しておくことは管理する上で大切なことです。また、訪れる人が少ないところでは盗掘のリスクにも常時警戒されています。特に笹ヶ岳は、至仏山と同様に蛇紋岩の山で、貴重な蛇紋岩特有な植物が生育しています。できればボランティアの力を借りてでも巡視員の配置ができると良いと思っています。	研究者
1-16	貴重な自然環境の保護	尾瀬は昔から希少な動植物の宝庫として知られています。これは多雪気候による地域的な固有種の存在とともに、高層湿原、高山植生をはじめとした寒冷地の生物が遺存的に残ってきたことによるところが大きいと言えます。このように尾瀬は寒冷気候下の生物のレフュージアとなっており、それゆえ温暖化に対する脆弱性を内在していると言えます。これらの生物が存在する生態系は、それを取り巻く自然林とともに一体化し、ひいては地域の生態系のみならず生物の種の多様性を高めることになっています。原生自然として規制を加えて生態系ごと保全するとともに、尾瀬の価値・生態系や生物多様性について発信する必要があると思います。	研究者
1-17	貴重な自然環境の保護	ヤマドリゼンマイが生育場所を拡大しているの、多少食べて数を抑えた方がいいのではないかと。	宿泊業関係者
1-18	貴重な自然環境の保護	昔より池塘が少なくなったと思う。	宿泊業関係者
1-19	貴重な自然環境の保護	富栄養化によって植物が影響を受けている場所も感じられるので対策をお願いしたい。	一般利用者
1-20	貴重な自然環境の保護	年間平均気温が高くなり、降水量も減少しているのかもしれないが、湿原が戦場ヶ原のように乾いてきている。笹や低木が侵略してきており、湿原の面積が減少しているように感じる。地球温暖化による気象の変化が尾瀬の環境変化をもたらしていると思う。このままでは尾瀬が尾瀬でなくなる危機感を持っている。	宿泊業関係者、地域住民
1-21	貴重な自然環境の保護	最も心配なのは近年の気候の変わり方だと思います。当地は数年来、過去に記録の無かった様な大雨が数回あり、未だ復旧できていない状態が続いています。	宿泊業関係者
1-22	貴重な自然環境の保護	多くの人が来ることによって、昔のように自然が壊れてしまうのではないかと心配している。	尾瀬サミット
1-23	貴重な自然環境の保護	気候変動は必然で、尾瀬の自然環境の変化も必然。影響は黙って見守るしかないのではないかと。	
2-1	植生の荒廃対策	ニッコウキスゲが少なくて利用者も減ってしまうので、しつかり守っていく必要がある。ニッコウキスゲの種を播いて増やすようなことはできないのか。	宿泊業関係者
2-2	植生の荒廃対策	ニッコウキスゲが減っていることが入山者の減少の主な原因だと思う。	宿泊業関係者
2-3	植生の荒廃対策	ニッコウキスゲを復元して欲しい。	一般利用者
2-4	植生の荒廃対策	ニッコウキスゲの減少は目で見ても明らかだが、その他の植物も含め、経年的な変化が客観的な指標としてあると分かりやすい。	地域住民
2-5	植生の荒廃対策	荒れてしまった植生の回復に取り組んでいく必要があるのではないかと。	宿泊業関係者
2-6	植生の荒廃対策	田代山では高山植物の盗掘が見受けられるので対策を考えたい。	観光協会
2-7	植生の荒廃対策	至仏山・燧ヶ岳トイレ問題	地域住民
2-8	植生の荒廃対策	オヤマ沢田代上部の笹ヶ岳への分岐付近の御用適地は特に糞尿だらけで、知る人ぞ知るキジ場です。毎回登る度に必ずどこかで御用跡を目撃します。荒廃登山道整備とともに、最優先に取り組むべき課題だと思います。	研究者
2-9	植生の荒廃対策	高山植物の減少と登山道の荒廃への対策を進めるべき。	宿泊業関係者
2-11	植生の荒廃対策	田代山高層湿原の北西に隣接する国有林の天然林内で以前より斜面の崩落が確認されており、そのまま放置すると浸食が徐々に山頂付近に拡大し、いずれ高層湿原が脅威に晒されることになるため、砂防等の予防的措置が望まれるところです。一案として、既に荒廃しており植生回復や拡大防止の緊急性がある箇所と、潜在的な危険性がある箇所とを地図上に色分けプロット＝見える化、してステークホルダーの間で情報共有する取り組みはどうか。	土地所有者
3-1	外来植物対策	外来植物の増加が気になっています。20年前に既に移入していたオオバコ、近年すごい勢いで増えているオオハンゴンソウなどです。集団施設地区は既に人工的に管理されているので「どんな植物も抜いてはいけない」という決まりも、エリアと種を確定した上で駆除対象とすべき。それらの植物を、ボランティア活動として、日にちを限定して作業確認ができる人を配置した上で駆除するイベントなども良いかと思います。（やる人だけでなく、通りすがりの人にも「種子落としマットの意味」が伝わりやすいと思います。）また、種子落としマットが入口にしか無いのは片手落ちです。既に集団施設地区に外来植物は大量にあるので、そこから尾瀬ヶ原や大江湿原に入る場所には設置した方がいいと思います。微力ながら啓発の一つにもなるとと思います。	ボランティア

No.	分類	意見の概要	発言者の属性
3-2	外来植物対策	鳩待峠の種子落としマットの改良。さらに、福島県側にも種子落としマットを設置し、尾瀬として統一的に取り組んだ方がよい。	尾瀬認定ガイド、地域住民
3-3	外来植物対策	ガイドが外来植物をガイド中にお客様と一緒に除去することはダメなのか。一番外来植物について理解してもらい易いと思う。	地域住民
4-1	ニホンジカによる被害の低減	ニホンジカの捕獲だけでなく、肉や革を利用・商品化した方がよい。すでに実践している団体もあるが関係市町村の飲食料店旅館、売店でも利用できるよう流通ができないだろうか。(群馬県四万温泉では獣害のイノシシを捕獲、肉を温泉地の名物料理として活用しているとのこと)	宿泊業関係者
4-2	ニホンジカによる被害の低減	ニホンジカ対策については、現状の湿原だけ守れば良いという考えは捨てて、戸倉山林の車道沿いに防鹿柵を設置するなどして、管理や設置のしやすい対策を取るべきと考えます。	宿泊業関係者
4-3	ニホンジカによる被害の低減	柵の効果が出た大江湿原のように、尾瀬ヶ原も早期に柵の設置をお願いしたい。雪深い尾瀬なので、維持管理が大変であれば、外周部にある林道など管理しやすい場所に設置し広域で守り、柵内では一斉駆除を行うなど、綺麗事でない対策が必要だと思う。	ボランティア
4-4	ニホンジカによる被害の低減	尾瀬の守るべき場所は柵などで囲うべき。ただ、どこがお金を出し管理するのかというレベルの話になってしまう。協働で出来る仕組みづくりが必要。クラウドファンディングによる資金調達やボランティアの活用・協力なども必要。	請負業者
4-5	ニホンジカによる被害の低減	尾瀬ヶ原を柵で囲うことは現実的でないし、他の動物などに与える影響を考慮する必要がある。	マスコミ関係者
4-6	ニホンジカによる被害の低減	ニホンジカによる被害に関しては、どのようにすれば入山者に理解してもらえるかということが課題。入山者の多くはシカに遭遇できて嬉しいというレベルで、被害がすごいという感覚を持っていない。丁寧な説明が必要	アウトドア業界関係者
4-7	ニホンジカによる被害の低減	ニホンジカ対策の目標・目指すべき所(どういう状態であればよいのか)が明確でない。全体に何頭いるのか分からない。	請負業者
4-8	ニホンジカによる被害の低減	シカは日夜で湿原⇄森林、季節で尾瀬⇄日光・足尾を移動している。足尾の越冬地でも尾瀬に来る個体は標高の高い稜線部(半月山など)にいて捕獲が難しい。高標高域での捕獲手法の確立が必要。	請負業者
4-9	ニホンジカによる被害の低減	南会津の管内では、ニホンジカによる林業被害はそこまで大きくないが、今年から目立ちはじめた。今後拡大していく可能性もある。館岩地域から北上しているようである。	土地所有者
4-10	ニホンジカによる被害の低減	近年はニホンジカによる植生攪乱などが広がっていますが、これも人為的な影響のひとつとして考えるべきものです。	研究者
4-11	ニホンジカによる被害の低減	ニホンジカの捕獲時期の調整などを官庁横断的、組織横断的にできればよいと思う。春に妊娠した雌を捕獲できれば効率が良い。	土地所有者
4-12	ツキノワグマとの共存	ツキノワグマの出没が多い。噂が広がると尾瀬のマイナスイメージとなるので注意喚起が必要。	宿泊業関係者
4-13	ツキノワグマとの共存	田代山山頂湿原にツキノワグマが出没するようになっている。	観光協会
4-14	ツキノワグマとの共存	安全対策 テンマ沢湿原の木道の高架化が必要。	尾瀬認定ガイド
4-15	ツキノワグマとの共存	安全対策 クマ除けの鐘をもう少し増やしてみようでしょうか。	一般利用者
4-16	ツキノワグマとの共存	至る所でミスバショウの刈払いが行われ、最大の魅力とも言える風景はガタガタ。ツキノワグマは駆除出来ない野生動物の代表格ですが、人のいる場所に出なくなるようになった原因は頭数の増加ほか複合的な理由だと思います。原因究明と対策を急がないと、入山者は減る一方ではないかと思えます。	ボランティア
4-17	ツキノワグマとの共存	特別保護地区内でクマを捕獲するのはおかしい。殺さずに、観光資源にするべき(施設を造るなど)。高架木道や一時的に電柵を張るなどの対策をとるのはどうか。	地域住民
4-18	新たな獣害への対応	昔は、銀山平周辺はシカやサルがいなかったが、近年見られるようになってきている。	地域住民
4-19	新たな獣害への対応	麓にいるイノシシがこれから尾瀬内に入ってこないか心配している。	宿泊業関係者
5-1	調査研究の促進	尾瀬に関しては、まだ学術的に分かっていないこともある。第4次尾瀬総合学術調査の実施によって、自然環境の変化のメカニズムを解明させたい。	尾瀬サミット
5-2	調査研究の促進	山小屋やビジターセンターなど現場で携わっている人々が日常的に感じている把握をしっかりと把握することが重要。	宿泊業関係者
5-3	調査研究の促進	貴重な自然環境の保護 尾瀬のシカ資源の持続可能な利用は、多様な生態系が機能し自然環境によって支えられます。これを基盤とする生態系サービスは尾瀬が自然のままの多様な生態系を有することにより初めて機能します。尾瀬を将来にわたり適正な利用を行うためには、環境・生態系のモニタリングを続けながら、持続可能な許容能力を意識した利用計画をその時々で計画・検討・実行することが重要だと考えます。	研究者
5-4	調査研究の促進	貴重な自然環境の保護 多くの人々は自然を静かに捉えがちですが、本来自然というのは動的な存在です。いつまでも現状のままの姿ではありません。そこで重要なのは、その時その場の自然の姿を残すことです。計画的な調査(総合学術調査・福島群馬の委員会による調査ほか)や標本作製を今後も進め、現状を確実に記録として残していくことが、自然を動的に捉えて真実の変遷のプロセスを明らかにすることになります。これは大きな人類の知的財産になりますし、未来の保護・保全策を講じる礎になるものです。	研究者
5-5	調査研究の促進	資金的サポートの充実 尾瀬の保全を行うためには、その地域の自然を正しく理解することが不可欠です。今までに行われてきた保全にかかわる事業などについても、自然の把握が十分に行われずに進められたことで、効果が上がっていないところがあります。尾瀬の自然の状態を把握するためには、総合学術調査だけではなく、地元根付いた継続的に地道な調査活動が必要です。この継続的な調査活動を行うためには、専門の研究部門を設け、動植物(植生や大型哺乳類など、できれば地形地質も)の研究者を複数配置するのが良いと思います。研究者の配置には、資金が必要ですが、『入山料』を徴収すれば、その中から充てることができると思います。	研究者

No.	分類	意見の概要	発言者の属性	
4. 「みんなで楽しむ」に関することについて				
No.	分類	意見の概要	発言者の属性	
1-1	尾瀬の魅力向上	認知度の向上	現在、情報に溢れており、旅行先も国内・海外を含め多様化している。入山者の減少はそういったことも大きな要因と思う。	観光協会
1-2	尾瀬の魅力向上	認知度の向上	日本全国に国立公園があるので、旅行会社や利用者は、尾瀬がダメでも他の所に行く。そういった競争にあることの理解が大切。	旅行業関係者
1-3	尾瀬の魅力向上	多様な利用方法の検討	冬はスキー（1/5は山スキー）で来る利用者が多い。尾瀬の魅力の一つだと思う。	地域住民
1-4	尾瀬の魅力向上		白尾山・血伏山は魅力あるコースと思う。	宿泊業関係者
1-5	尾瀬の魅力向上		星や蛍、朝もや、白い虹を売れたらいい。	宿泊業関係者
1-6	尾瀬の魅力向上	施設の整備	洪沢大滝はよい資源だったので、ちゃんと行けるようになればよい。	宿泊業関係者
1-7	尾瀬の魅力向上		花の時期以外も景色を楽しめるようにもしたい。	地域住民
1-8	尾瀬の魅力向上		付加価値を付けた高級志向で売ること大切	請負業者
1-9	尾瀬の魅力向上		観光地にありがちな物見遊山的なものではなく、知的な面の充実をはかることも重要でしょう。「尾瀬の魅力アップ」には、サービスを過剰に充実することではなく、利用する人達に対して、如何に賢い利用をしてもらうか、そのための情報提供も重要な課題となります。	研究者
1-10	尾瀬の魅力向上		大清水湿原のミズバショウを復活させたい。	地域住民
1-11	尾瀬の魅力向上		大清水湿原をより魅力ある場所にしたい。	尾瀬サミット、尾瀬認定ガイド
1-12	尾瀬の魅力向上		SNS映えするお洒落な写真や綺麗な景色の撮れるスポットがあると良い。	尾瀬サミット
1-13	尾瀬の魅力向上		ハート型の池塘を恋愛スポットにする。	尾瀬認定ガイド
1-14	尾瀬の魅力向上	地域における利用の役割分担	悪天候や雨が降っている時、尾瀬に入れない時などに尾瀬に関して楽しめる様な工夫が必要。利用者は帰るしかない。	宿泊業関係者
1-15	尾瀬の魅力向上	地域における利用の役割分担	尾瀬だけでなく、村の魅力をもっと出していこうと考えている。	地域住民
1-16	尾瀬の魅力向上		空と山が時間とともに姿をかえていくのがよい。	一般利用者
1-17	尾瀬の魅力向上		脱日常感がよい。	一般利用者
1-18	尾瀬の魅力向上		少し不便なぐらいが良いと思う。不便なことが良い。	一般利用者
1-19	尾瀬の魅力向上		尾瀬が飽きられているのではないかと考えている。同じ道しか歩けないのが一因ではないかと思う。	宿泊業関係者
1-20	尾瀬の魅力向上	歴史・伝統・文化の保全	時代の流れとともに、人の価値観や指向はどんどん変わって来ました。尾瀬の魅力というのは自然の見せる姿だと思っていますが、これを戦略的な意図を持って変えることは難しいと思います。可能なことは、自然の魅力をさらに掘り下げることではないでしょうか。例えば、檜枝岐の曲げわっぱの様な尾瀬の木材の歴史や三島町の網組細工、曲がり家と農の風景など、尾瀬だけでなく周辺の自然も含めた当地の「人と自然の関わり」から生み出されてきた民俗的な「物事」が近年価値を見直されているようです。	宿泊業関係者
2-1	多様な利用方法の検討		ブナ平で「ジップライン」という楽しみ方も面白いかもしれない。	地域住民
2-2	多様な利用方法の検討	地域における利用の役割分担	自然保護の観点からすごく難しいとは思いますが岩魚が食べれたらいいなと思います。	一般利用者
2-3	多様な利用方法の検討		尾瀬沼に手こぎボートを浮かべる。平日だけにすれば、分散化にも繋がるのではないかと。	地域住民
2-4	多様な利用方法の検討		尾瀬により多く集客する対策として尾瀬沼の活用。電気動力による渡し舟の運行。尾瀬の楽しみ方が増える。老若男女が利用することにより、福島・群馬両県からの観光客が必ず増える。	宿泊業関係者
2-5	多様な利用方法の検討		沼で釣りや和船ができればいい。	宿泊業関係者
2-6	多様な利用方法の検討		オコジョに会えるサービスなど、もっと動物が身近で見られる所があったらうれしいです。	一般利用者
2-7	多様な利用方法の検討		捕まえたニホンジカなどで子どもが遊べるふれあいコーナーを作ればいいのではないのでしょうか。	一般利用者
2-8	多様な利用方法の検討		尾瀬でライブはどうか。個人的にはあまりしないほうがいいと思っているが。	宿泊業関係者
2-9	多様な利用方法の検討		花や木、葉、星空の他、朝日を見るイベントがあったら良い。	一般利用者
2-10	多様な利用方法の検討		星空/植物/鳥/魚に特化したカルチャースクール	一般利用者
2-11	多様な利用方法の検討		半年間の講習で、月1位で色々なテーマの先生や詳しい人(財団とか環境省の人・山小屋さん・ガイドさん・ボランティアさん)など尾瀬に関わっている人の講習があり国立公園のこと、自然保護のこと、ボランティアのこと、植物、生き物、星空、などちょっとコアな話が聞ける【尾瀬スクール】があったら面白いと思う。	一般利用者
2-12	多様な利用方法の検討		山小屋でウェディングドレスに着替えて写真を撮っている方がいた。山ガールも増えた中で婚活イベントを開催するのはどうか。	尾瀬サミット
2-13	多様な利用方法の検討		採集イベントや標本作り・味覚体験	一般利用者
2-14	多様な利用方法の検討		尾瀬沼を見ながら日帰り入浴できたら良い。	一般利用者
2-15	多様な利用方法の検討		テント泊がもっと出来るところが多ければいいと思います。	一般利用者
2-16	多様な利用方法の検討		親子連れなどを対象にテントのレンタルを始めるのはどうか。	宿泊業関係者
2-17	多様な利用方法の検討		湿原に撮影ポイントを設置して撮影台や専属カメラマンを配置	尾瀬認定ガイド
2-18	多様な利用方法の検討		子どもが楽しめる場作りが大切。	尾瀬サミット
2-19	多様な利用方法の検討		村の子どもも対象で山菜採りなどの体験イベントができればいいかもしれない。	地域住民

No.	分類	意見の概要	発言者の属性
2-20	多様な利用方法の検討	尾瀬の生い立ちなどに関するサイエンスカフェの設置	一般利用者
2-21	多様な利用方法の検討	外国人を呼ぶという上では、登山以外の楽しみが必要だと思う。例えば、放射能の問題がクリアされれば、尾瀬の鹿を使ったジビエ料理などは売り物になると思う。	尾瀬サミット
2-22	多様な利用方法の検討	地域イベントなどと尾瀬行をセットにした旅程	宿泊業関係者
2-23	多様な利用方法の検討	安全対策 尾瀬ヶ原のアヤマ平側の山際に登山道がある方がカメラ対策にもなる。	宿泊業関係者
2-24	多様な利用方法の検討	施設の整備 尾瀬ヶ原が見渡せる展望台があるといいと思っている。	宿泊業関係者
2-25	多様な利用方法の検討	施設の整備 新しい登山道でもできれば違うと思う。背中アプリ田代やメッケ田代まで行けたら面白いと思う。	宿泊業関係者、尾瀬認定ガイド
2-26	多様な利用方法の検討	施設の整備 現在は雪のある時しか行けないが、小沼や治右衛門池まで行ける登山道があるとよい。	地域住民
2-27	多様な利用方法の検討	白い虹フェスタのような泊まらないと見られないような企画をやってもいいのではないか。	宿泊業関係者
2-28	多様な利用方法の検討	尾瀬の山小屋やV.Cを含めての尾瀬フェス（一般利用者の参加型のイベント）	一般利用者
2-29	多様な利用方法の検討	期間限定のスターバックスなどを出展できれば、新しい魅力になると思う。	宿泊業関係者
2-30	多様な利用方法の検討	カフェを増やしてお客さまがのんびりできる場所を増やす	尾瀬認定ガイド
2-31	多様な利用方法の検討	きれいな空気を用いたエクササイズ・ヨガなどヘルス関係を推してもいいのではないか。	宿泊業関係者
2-32	多様な利用方法の検討	メンタルヘルスとしての活用が必要	尾瀬認定ガイド
2-33	多様な利用方法の検討	企業のCSRや業界向け、一般利用者向けのイベントなどを充実させることが必要	尾瀬認定ガイド
2-34	多様な利用方法の検討	イベントとして、山小屋の主人の話を聞くようなことも考えても良いのではないか。	宿泊業関係者
2-35	多様な利用方法の検討	インタープリターやガイドによる尾瀬を楽しむツアーのさらなる推奨も取り組んでもらいたいです。	ボランティア
2-36	多様な利用方法の検討	着地型観光の参加者が増えているので、取り組む必要があると思う。	旅行業関係者
2-37	多様な利用方法の検討	尾瀬内の夜ツアー開発とPR	尾瀬認定ガイド
2-38	多様な利用方法の検討	もっと夜や冬の利用（多様な利用）が進めば、地域も潤い、尾瀬も守られるのではないか。特に冬の充実は大切で、企画の際にはガイドを付けるなど安全に配慮する必要がある。	旅行業関係者
2-39	多様な利用方法の検討	自然を見に来たい人、歴史も含めて尾瀬を学びたい人、楽しみ方にも色々あると思う。色々なパッケージがあってもいいのではないか。自然以外の目的もあれば、旅行業者も色々なツアーが企画できるのではないか。	交通事業者
2-40	多様な利用方法の検討	尾瀬を楽しむには、ゆっくりとそして季節・コースを変えて歩くことが大切だと思います。また、周辺地域には魅力ある地域があり、そこでしか見ることができない文化や味わうことができない食があります。周辺をとりこんだゆっくり余裕のあるコンテンツを提供することが必要だと思います。	研究者
2-41	多様な利用方法の検討	沢上り、沢下りが楽しめるツアー。厳冬期、残雪期の尾瀬利用	尾瀬認定ガイド
2-42	多様な利用方法の検討	何度か尾瀬に来た人にとっては、自由に歩ける残雪期がいいらしい。	地域住民、宿泊業関係者
2-43	多様な利用方法の検討	厳冬期は無理にしても、3～4月にかけて残雪期にスキー、スノーシュー、雪上車、スノーモービルなどを利用した大自然の散策。	宿泊業関係者
2-44	多様な利用方法の検討	尾瀬のファンづくり ツアー客の高齢化やリピーターの減少を踏まえると新たな魅力を創造して欲しい。例えば、特定のツアーに申し込まないと体験できないことや安全を前提とした冬の入山などができるとお客さんは集まると思う。	旅行業関係者
2-45	多様な利用方法の検討	鳩待峠～戸倉をケーブルカーで楽しむ。リフトやゴンドラで尾瀬を上から眺める	尾瀬認定ガイド
2-46	多様な利用方法の検討	バリアフリー化の話が出るたびに思うのですが、ヘリにより上空から一望できるツアーなども「楽しみ方の多様化」としてあってもいいかな、と思います。相応の利用料（環境付加税みたいなもの）が設定できれば、良いのではないか。ただし、国立公園域内に着地のヘリポートなどは不要と思います。	ボランティア
2-47	多様な利用方法の検討	群馬県と福島県は唯一道路で繋がってないという面白さもある。	地域住民
2-48	多様な利用方法の検討	ある範囲をそのまま走ったりできたらよかった。	一般利用者
2-49	多様な利用方法の検討	尾瀬の本質的な楽しみ方は、豊かな自然や、それを守る活動の発祥の場であること、それを知る面白さだと思います。	ボランティア
2-50	多様な利用方法の検討	規制が厳しく、尾瀬内で何かをやるというのは難しいと思っている。	地域住民
2-51	多様な利用方法の検討	ルール・マナーの検討・普及啓発 新たな利用のためのルール作りが必要。	尾瀬サミット
3-1	エコツーリズムの促進	認定ガイドツアーのPR	尾瀬認定ガイド
3-2	エコツーリズムの促進	人によって差があるので、尾瀬認定ガイドの人材育成と向上が必要である。	宿泊業関係者
3-3	エコツーリズムの促進	マナーやルールを徹底するためにも、認定ガイド利用が基本であり、外国語を話せる認定ガイドの育成が必要と思う。	宿泊業関係者
3-4	エコツーリズムの促進	地元のベテランガイドが高齢化しているので、そういった方が現役の間によく尾瀬の歴史などを学んだ方がよい。	交通事業者
3-5	エコツーリズムの促進	認定ガイドがいつでもどこでも気軽に依頼できるシステムや拠点作り。	尾瀬認定ガイド
3-6	エコツーリズムの促進	認定ガイドになる要件に、「尾瀬で自然保護活動を～時間実施していること」というような内容を入れてもいいのではないか。そういった様々な体験をしている方の話の方が面白いと思う。	尾瀬サミット
3-7	エコツーリズムの促進	エコツーリズム推進協議会の設置	尾瀬認定ガイド
3-8	エコツーリズムの促進	自然保護と観光の合致点をうまく作れると良い。尾瀬を大切な資源として、有効に活用していく必要があると思う。	宿泊業関係者、地域住民

No.	分類	意見の概要	発言者の属性
3-9	エコツーリズムの促進	自然は楽しんでこそ守れるもの。アメリカのヨセミテ国立公園もそうだった。	アウトドア業界関係者
3-10	エコツーリズムの促進	尾瀬の魅力向上 数あるエコツーリズムの中で尾瀬がどういったエコツーリズムを目指すのか、という視点が必要ではないか。尚、森林や自然と人の健康の関係が改めて注目されている時代だと思えます。例えば、科学的知見に基づく森林セラピー（特定非営利活動法人森林セラピーサエティ）のセラピー基地やセラピーロードの認定を尾瀬の一部でもいいので受けることができれば、尾瀬の魅力アップとリピーターの獲得に繋がらないでしょうか。	土地所有者
3-11	エコツーリズムの促進	全体的にツアーが減っている気がする。関西圏からは、ツアー客・個人客ともに減少傾向である。	宿泊業関係者
4-1	地域における利用の役割分担	対象とする利用者層によって尾瀬内のゾーニングを分けて整備していくことが、保全と利用に繋がってくると思う。	尾瀬サミット
4-2	地域における利用の役割分担	ルートによって、初級・中級・上級のレベル別表示、周知をもっと強化しても良いのではないかな。	地域住民
4-3	地域における利用の役割分担	尾瀬の周辺地域に人を呼び込むことも必要。周辺に来た人を尾瀬のコア地域に引き入れていくことも考えていかなければならない。	交通事業者
4-4	地域による利用の役割分担	尾瀬を訪れる方の多くは静かな尾瀬に身も心も浸りたいのではないかな。アウトドア体験などは尾瀬の外でもできるのではないかな。	ボランティア
5-1	滞在型・宿泊型の促進	尾瀬の活性化には、地元山小屋・旅館・民宿の活性化が大切だと思う。保護・利用・安全の面で重要であることをしっかり認識して	尾瀬サミット、宿泊業関係者
5-2	滞在型・周遊型の促進	望ましい交通アクセスの検討 アクセスが良くなったことで、日帰りの利用者が増えている。もっと周遊などしてもらった方が良い。	地域住民、宿泊業関係者
5-3	滞在型・周遊型の促進	入山者に対する宿泊客の割合は約2割。また、人気のある山小屋に宿泊客が集中する傾向がある。	宿泊業関係者
5-4	滞在型・周遊型の促進	周遊型を進めるためには、お客さんをいかにつかむかであり、遠方や海外がターゲットとなる。	宿泊業関係者
5-5	滞在型・周遊型の促進	尾瀬のファンづくり 周遊型・滞在型の推進については、リピーターの確保をいかに進めるかであり、利用者の満足度を高めていくことが大切である。	マスコミ関係者
5-6	滞在型・周遊型の促進	多様な利用方法の検討 散策のスタンプラリーはやっていましたが、宿泊スタンプラリー、ビジターセンターなどでの観察会などへの参加スタンプラリーなどで、尾瀬をゆっくり楽しんでもらいたいです。（日帰り弾丸ツアーとかではなく）	ボランティア
5-7	滞在型・周遊型の促進	認知度の向上 首都圏は日帰りが中心となっているので、早朝にしか体験できないことや夜しかできないことなどをPRするとともに、イベント実施など、独自のイベントを行うことも必要。	旅行業関係者
5-8	滞在型・周遊型の促進	尾瀬の魅力向上 宿泊業者の特徴ある運営。同じ様な小屋が点在し差異がないので新しい形を造る。	尾瀬認定ガイド
5-9	滞在型・周遊型の促進	エコツーリズムの推進 宿泊業者とガイドとの連携	尾瀬認定ガイド
5-10	滞在型・周遊型の促進	キャンプ利用者の利便性向上（入浴、夕食など）	尾瀬認定ガイド
5-11	滞在型・周遊型の促進	認知度の向上 魚沼→群馬、群馬→魚沼など、連携してPRできたらと考えている。	交通事業者
5-12	滞在型・周遊型の促進	平日誘客への取り組み・宣伝（例）平日割引（駐車場、バス、宿泊）、ポイントカード平日2倍、スタンプラリーなど	一般利用者
5-13	滞在型・周遊型の促進	望ましい交通アクセスの検討 登山者の入山口分散化策ですが、単に業者や世間に呼びかけだけでは実効は上がらないと思えます。どうしても、土日祝日に集中するのは仕方ないことです。楽に入れる鳩待峠や沼山峠が選ばれるのも然りです。抜本的な思い切った対策（たとえば、鳩待峠は津奈木橋から、富士見口は田代ツ原から徒歩にする。または富士見小屋まで公共交通を導入するなど）に踏み切らない限り良好な変化は期待できないのではないのでしょうか。	ボランティア
5-14	滞在型・周遊型の促進	認知度の向上 他の山域の山小屋は詰め込むが、尾瀬は詰め込まないので、それなら土日は尾瀬に行った方が良いという考え方もある気がする。	宿泊業関係者
5-15	滞在型・周遊型の促進	認知度の向上 利用分散のPRだけでは、真の意味での利用分散はできない。	宿泊業関係者
5-16	滞在型・周遊型の促進	望ましい交通アクセスの検討 鳩待峠からの入山者を分散化させるためにも、津名木から歩かせるのも手かと思えます	ボランティア
5-17	滞在型・周遊型の促進	望ましい交通アクセスの検討 利用分散の意味でも、もっと早くから低公害車運行を始めて欲しい。経済的な効果もあるし、利用者の満足度も高くなると思う。遭難などの危険は、防止する対策をしっかり考えなければ良くならないのではないかな。	地域住民、交通事業者
5-18	滞在型・周遊型の促進	望ましい交通アクセスの検討 大清水～ノ瀬間を舗装することができれば、毎年のメンテナンスコストを抑えられるはず。	地域住民
5-19	滞在型・周遊型の促進	望ましい交通アクセスの検討 大清水～ノ瀬間の低公害車は、事前予約ができないことから旅行エージェントとしては使い勝手が悪い。可能であれば事前予約を可能として欲しい。	旅行業関係者
5-20	滞在型・周遊型の促進	望ましい交通アクセスの検討 大清水～ノ瀬間でツアーを受けるためには、マイクロバスなども利用できるようにした方がいいのではないかな。	交通事業者
5-21	滞在型・周遊型の促進	望ましい交通アクセスの検討 もっと富士見峠や大清水からの利用が増えないと、尾瀬全体が盛り上がりません。	宿泊業関係者
5-22	滞在型・周遊型の促進	施設の整備 富士見下～富士見峠間の林道を整備して車（またはケーブル？）で入れるようになれば、利用分散にもなるのではないかな。	地域住民
5-23	滞在型・周遊型の促進	認知度の向上 8月下旬から紅葉までは、本当にお客さんが少ないので、閑散期のPRを上手くする必要があります。	宿泊業関係者
5-24	滞在型・周遊型の促進	認知度の向上 ピークの平準化が必要だと思う。	交通事業者
5-25	滞在型・周遊型の促進	認知度の向上 オーバーユースが懸念されるミズバショウ・ニッコウキスゲ・紅葉の最盛期の週末は何とかすべきです。この時期の貸切バスでの団体入山は拒否すべきと考えます。	ボランティア
5-26	滞在型・周遊型の促進	認知度の向上 現在、入山者はミズバショウやニッコウキスゲの時期に偏っているので、もっと自然の多様性を見てもらえるようにシフトした方がよい。	観光協会
5-27	滞在型・周遊型の促進	認知度の向上 入山者の分散化と言っている割には、鳩待峠からの入山を推奨する施策が多くとられている（入山する人に対しての設備面、交通面での優遇）。	ボランティア

No.	分類	意見の概要	発言者の属性	
5-28	滞在型・周遊型の促進	認知度の向上	尾瀬地域には現在でも様々なルートがありますが、ごく限られた登山者しか入らないコースがたくさんあります。これらを再整備して結び、人郷（基地）を含めて発信することにより地域全体が活性化する可能性もあります。登山者が分散し、利用する登山道が分散すれば、かかる自然への負荷も軽減が期待できますし、登山者にすれば新たな景観や楽しみが開けます。人目の少ない登山道では、盗掘のリスクも高くなるのが予想されます。	研究者
5-29	滞在型・周遊型の促進		利用分散は自然への負荷軽減だけでなく、損益にも影響があると思う。分散して利用してもらえれば、宿泊を断るような損は無くなる。	宿泊業関係者
5-30	滞在型・周遊型の促進		多くの人は土日休みなので、利用の分散化をするなら退職した世代には平日に来てもらう必要があるのではないかと。	交通事業者
5-31	滞在型・周遊型の促進		以前に比べると休みが取りやすくなっているので、金土・日月での利用であれば推進できるのではないかと。	宿泊業関係者
5-32	滞在型・周遊型の促進		利用分散は難しい課題である。首都圏からの入山者が、鳩待峠に集中するのはやむを得ない。	マスコミ関係者
5-33	滞在型・周遊型の促進		土日避けて平日に尾瀬に行ったら、子どもたちが多くて嫌になったという声を聞いたことがある。	宿泊業関係者
5-34	滞在型・周遊型の促進	望ましい交通アクセスの検討	入山口の分散化について、大清水～ノ瀬の低公害車が導入されていますが、富士見下ルートなどへも波及すると思います。何よりも、震災以来、東京方面から沼山峠への夜行バスルートがなくなったことが、東京都民としては選択肢が狭まり残念です。これは、民間業者の問題ではありますが、働きかけをしていただくと、入山口の利用分散につながるのではないのでしょうか。	ボランティア
6-1	安全対策		尾瀬の遭難者が多いということは、安易な入山が多いということなので、救助体制をしっかりやって欲しい。	尾瀬サミット
6-2	安全対策	認知度の向上	手軽な利用で入山者を増やしても、安易な入山は弊害が多いと思う。	ボランティア
6-3	安全対策		木道が整備され、怪我する人は減ったが、無理をする人が増えた印象。	地域住民
6-4	安全対策	認知度の向上	残雪期は、怪我のリスクが高まるので注意が必要。	観光協会
6-5	安全対策		警察が入山口で普及啓発してくれるお陰で、けが人も減ったと思う。	宿泊業関係者
6-6	安全対策	多様な主体の参加と連携促進	巡視やパトロールをもっと頻繁にやって欲しい。警備隊との入山口指導なども上手くリンクしながらやれると良い。	地域住民
6-7	安全対策	資金的サポートの呼びかけ	防災ヘリは有料にしてもいいと思う。	宿泊業関係者
6-8	安全対策		ヘリのピックアップポイントを群馬側（鳩待～山ノ鼻）、見晴新道、（それから尾瀬沼地区）など、個別の地域で地図化して共有しているが、尾瀬全域で（裏燧林道や沼見晴間含め）地図上に落とし、福島と群馬の防災ヘリで共有できれば良いと思う。	地域住民
6-9	安全対策		一般の人が現在地を伝えるのに目印などが無いので、ベンチに番号をふってほしい。	地域住民
6-10	安全対策	施設の整備	尾瀬ヶ原のアヤマ平側の山際に登山道があるとカミナリ対策にもなる。	宿泊業関係者
6-11	安全対策	施設の整備	雷がなっているときに避難小屋みたいなものがあると安心するなーと思いました。	一般利用者
6-12	安全対策		高齢化の時代でもあるので、安全のために高架式木道に手すりを付けたりする必要も出てくるのではないかと。	宿泊業関係者
6-13	安全対策	認知度の向上	ツアーも含めて来る前の周知が大切。どれくらい歩くか（登るか）、尾瀬は平らなイメージであるが「山」ですという周知がもっと必要だと思う。	地域住民
6-14	安全対策	認知度の向上	ルール・マナーもそうだが、安全対策についてももっと周知していくべき。乗り合いタクシーやマイクロバスなどでアナウンス（優しく）。ツアーの添乗員やガイドさんがバスの中でしっかり指導して欲しい。	地域住民
6-15	安全対策	施設の整備	木道上で救助者の処置が出来ないのが困る。木道は狭くスペースがないので、湿原に降りることになるが、時々登山者からクレームを言われるところがある。	地域住民
6-16	安全対策	施設の整備	鳩待峠などに人目を避けてつ安定して休ませることが出来る救護小屋が欲しい。そこに付属して救急セットなどがあると良い。	地域住民
6-17	安全対策		尾瀬内共通でつながる、関係者（警察・消防・山小屋・VCなど）無線があると良い。他の地域では遭対協無線というものもある。	地域住民
6-18	安全対策		尾瀬沼の防火体制を強化した方が良い。	地域住民
6-19	安全対策		山小屋やビジターセンターに看護婦がいれば、傷病の対応も違ってくると思うので、そういった体制整備も必要と思う。	尾瀬サミット、宿泊業関係者
6-20	安全対策		宿泊業関係者に応急処置を出来る人がいると助かる。毎年5、6月に警察と消防との情報交換の場があり、消防の人にファーストエイドの講習をしてもらう。尾瀬の山小屋やVCスタッフなど関係者を呼び、講習を受けてもらうのはどうか。	地域住民
7-1	施設の整備		牛首や至仏山、燧ヶ岳にトイレが欲しい。	宿泊業関係者、一般利用者
7-2	施設の整備		山岳域のトイレについては検討した方が良い。	尾瀬サミット
7-3	施設の整備		燧ヶ岳の長英新道で帰り道に迷った。もう少し標識が欲しいです。	一般利用者
7-4	施設の整備		尾瀬の希少性や価値を説明する標識整備	尾瀬認定ガイド、一般利用者
7-5	施設の整備		子どもたちも来るので、もう少し日陰の場所が必要だと思う。雨の時の屋根も少ない。	宿泊業関係者、一般利用者
7-6	施設の整備		鳩待峠の乗合タクシー場所に雨宿り場所	尾瀬認定ガイド
7-7	施設の整備		富士見峠は、せめて休憩所でも欲しい。場所もアヤマ平側にすればもっと良くなる。	宿泊業関係者
7-8	施設の整備		見晴キャンプ場のテラスの拡張も検討の必要がある。屋根付きの炊事場が欲しい。	宿泊業関係者
7-9	施設の整備		山ノ鼻のテング場が雨の日などはドロドロになってしまっかわいそう。水が流れ込む場所なのでテラス化するなど快適に幕営出来るようにした方がよいのではないかと。	地域住民
7-10	施設の整備		場所によっては、公衆トイレが利用者にとって不便なようなので改善できるとよい。	交通事業者

No.	分類	意見の概要	発言者の属性
7-11	施設の整備	鳩待峠の入口が分かりづらい。入山口の看板の整理&整備。現在地が分かるように、ポイントがわかるような番号表示があるとよいという意見もある。	地域住民、一般利用者
7-12	施設の整備	鳩待峠にV C機能が良かった方がよい。サテライトでもよいから検討して欲しい。英語が話せる人が常駐してほしい。	宿泊業関係者、地域住民
7-13	施設の整備	各登山口にミニビジターセンター設置	尾瀬認定ガイド
7-14	施設の整備	安全対策 ビジターセンターなどで登山用品のレンタルがあるとよい。	地域住民
7-15	施設の整備	尾瀬沼の再整備が始まり残念。尾瀬がこれからどうしたいのか分からない。	宿泊業関係者
7-16	施設の整備	鳩待峠の駐車場が少ない。	一般利用者
7-17	施設の整備	乗合バスにICカードやクレジットカードの導入を言われたことがあるが、それだけの投資をすることは難しい。	交通事業者
7-18	施設の整備	高価格帯でも構わないので携行品を少なく出来歩くことの楽しさと自然観察の楽しさに集中できるような宿泊施設があれば。(ゴージャスという意味でなく体力に自信が無かったり若干身体が不自由でも訪れる助けになるような)具体的には、アフリカなどの国立公園にあるようなスーパーエコリゾート型のホテルなどであると嬉しいです。日本ではまだ旅行者である私たちがエコリゾートの楽しみ方を知らないためどういった心構えで行くべきなのか何が期待できるのかエコツーリズムに不慣れです。尾瀬や阿蘇などから本格的になるといいなと思います。	一般利用者
7-19	施設の整備	見晴地区に電気を引いて欲しい。	宿泊業関係者
7-20	施設の整備	尾瀬国立公園が独立してから、田代線・木賊口ともに民地と国立公園地の境界の表示を提案してきたが、未だに実現されない。地元民は、山菜、キノコ、釣りや山の資源で生活を支えた人達も居た。境界を越えて採ることが犯罪扱いでは困る。	宿泊業関係者
7-21	施設の整備	トイレは汚いし、鳩待峠駐車場には屋根もない。こんなサービスの悪い国立公園はないと思う。利用者も減ると思う。	宿泊業関係者
7-22	施設の整備	山、川、湿原、花などは変えられない(自然の流れ)。できることは、山道整備(綺麗に保たれていなければ魅力半減)	宿泊業関係者
7-23	施設の整備	イベントを実施してお客さんを増やすよりは、まずは受け入れ体制としての登山道整備が大切だと思う。	宿泊業関係者
7-24	施設の整備	木道が滑りにくくなるように工夫して欲しい。	一般利用者
7-25	施設の整備	尾瀬のファンづくり	尾瀬サミット、一般利用者
7-26	施設の整備	これからの時代は、高齢者の方でも尾瀬(特に尾瀬沼)に来れるような道や手段があると良い。動く木道があるといいです。	一般利用者
7-27	施設の整備	至仏山から、山ノ鼻へ下山することができたら、登山のプランニングが、もっとやりやすくなる。	一般利用者、地域住民
7-28	施設の整備	至仏山の登山道がもっときれいだったらもっといいと思いました。	一般利用者
7-29	施設の整備	尾瀬沼南岸は残雪期は閉鎖されるので、早くから1周できるようにして欲しい	地域住民
7-30	施設の整備	登山道が閉鎖されていることは魅力の減少に繋がるので避けたい	地域住民
7-31	施設の整備	見晴新道と南岸の道が悪いので対応して欲しい。	宿泊業関係者、地域住民、一般利用者
7-32	施設の整備	ナデッ窪は、注意喚起させできれば登山道として問題ない。アヤマ平の一部、尾瀬沼南岸の痛みが酷い。	宿泊業関係者
7-33	施設の整備	大清水方面の登山道を綺麗にして欲しい。	一般利用者
7-34	施設の整備	燧裏林道については、木道が老朽化して危険な箇所は撤去して良いのではないかと。	宿泊業関係者
7-35	施設の整備	アヤマ平～竜宮までの長沢新道がとても滑りやすいので整備をして欲しい。見晴・竜宮方面で救助要請があった時、このルートを使うのが距離や時間的に一番短く、富士見峠まで緊急車両も入れるので便利。	地域住民
7-36	施設の整備	尾瀬沼と尾瀬ヶ原の両方を楽しんでいたためには、白砂峠周辺の道が歩きやすくなると良いと思う。	交通事業者
7-37	施設の整備	山ノ鼻～逆さ燧まで観察目的の木道退避スペース設置	尾瀬認定ガイド
7-38	施設の整備	山ノ鼻～逆さ燧まで木道ワイド化	尾瀬認定ガイド
7-39	施設の整備	ベンチの頻度を増やして欲しい。	一般利用者
7-40	施設の整備	木道、道標の整備が大切である。尾瀬ヶ原はプレート式の標識でも良い。	宿泊業関係者
7-41	施設の整備	道標の整備を進める必要あり。目的地までの距離などを入れると利用者に喜ばれる。登山技術のレベルによって表示を分けても良いのではないかと。	宿泊業関係者
7-42	施設の整備	見晴新道に見所がない。ひょうたん池に行く道を付けても良いのではないかと。また、頂上近くに道を付けても良いのではないかと。	宿泊業関係者
7-43	施設の整備	①尾瀬沼南岸の登山道(木道含む)が最悪②尾瀬沼V C～三平下までの木道が壊れている部分が最悪→お客様にお勧め出来ないで楽しめない、寿命が比較的長い材料はないものか	宿泊業関係者
7-44	施設の整備	廃道になりつつある只見川沿い(渋沢温泉経由)三条の滝→尾瀬ヶ原コースを復活できれば、新潟コースとして尾瀬の混まない穴場としてお薦めできると思いますが(森の中を歩くので夏も涼しい)。	宿泊業関係者
7-45	施設の整備	小沢平、渋沢の大滝の登山道の管理、渋沢温泉小屋の跡地利用、富士見小屋を含めた休憩施設が欲しい。	一般利用者
7-46	施設の整備	駒ヶ岳のテレビ放映を視て、木道の荒廃に驚きました。尾瀬国立公園に編入される以前よりも酷い状況に見えました。村の説明などによると、限られた予算はどうしても尾瀬そのもの(尾瀬ヶ原・尾瀬沼方面)の方が優先となり、駒ヶ岳は後手に回るとのことでしたが、駒ヶ岳も尾瀬の一部となった今は、同一歩調で木道の整備を進めるべきだと思います。	宿泊業関係者
7-47	施設の整備	大清水の登山道の荒れ方はあまりにもひどく、あれではせっかく分散化で大清水を使って入山したとしてもリピーターは増えないと思います。	ボランティア

No.	分類	意見の概要	発言者の属性
7-48	施設の整備	人々の関心は、どうしてもメインルートや登山者が多いところに集中しがちです。一方で登山者が少なく話題になることも少ないルートは忘れられがちです。忘れずとも、問題・課題があっても優先順位を落とされて後回しにされることが多いと思います。放っておいたら取り返しのつかない荒廃に至るケースや、修復に莫大な費用がかかるようになるケースも考えられます。	研究者
7-49	施設の整備	資金的サポートの呼びかけ	尾瀬サミット、請負業者
7-50	施設の整備	多様な主体の参加と連携促進	ボランティア
7-51	施設の整備	先進的な取組の推進	ボランティア
7-52	施設の整備	携帯が通じない現実を知ると、なかなか働いてくれる若者少ない。	宿泊業関係者
7-53	施設の整備	安全対策	宿泊業関係者
7-54	施設の整備		一般利用者
7-55	施設の整備	認知度の向上	宿泊業関係者
7-56	施設の整備		宿泊業関係者
7-57	施設の整備		宿泊業関係者
7-58	施設の整備		地域住民
7-59	施設の整備		一般利用者
7-60	施設の整備	尾瀬のファンづくり	宿泊業関係者
7-61	施設の整備	ルール・マナーの検討・普及啓発	尾瀬サミット
7-62	施設の整備	認知度の向上	ボランティア
7-63	施設の整備	認知度の向上	ボランティア
7-64	施設の整備		地域住民
7-65	施設の整備		宿泊業関係者
7-66	施設の整備		宿泊業関係者
7-67	施設の整備		尾瀬サミット
8-1	ルール・マナーの検討・普及啓発		宿泊業関係者
8-2	ルール・マナーの検討・普及啓発		一般利用者
8-3	ルール・マナーの検討・普及啓発		地域住民
8-4	ルール・マナーの検討・普及啓発	認知度の向上	ボランティア
8-5	ルール・マナーの検討・普及啓発	施設の整備	研究者
8-6	ルール・マナーの検討・普及啓発	認知度の向上	ボランティア
8-7	ルール・マナーの検討・普及啓発	認知度の向上	ボランティア
8-8	ルール・マナーの検討・普及啓発		一般利用者
8-9	ルール・マナーの検討・普及啓発		一般利用者
8-10	ルール・マナーの検討・普及啓発		尾瀬サミット
8-11	ルール・マナーの検討・普及啓発		宿泊業関係者

No.	分類	意見の概要	発言者の属性
8-12	ルール・マナーの検討・普及啓発 安全対策	尾瀬に来て楽しむ権利は、全ての人にあることは言うまでもありませんが、それでは尾瀬の抱えている諸問題は解決できません。例えば、現在の一部ツアーには、安全性を含め改善を求めたい事例が少なからず見受けられます。そのため、異常に多い山岳ヘリの出勤回数の常態化を招いていると思います。生涯教育の時代を迎え、今後高齢者の利用がますます多くなることが予想され、安全面での対策が課題となります。山歩きに対する準備や事前知識のない入山は、規制の対象とすべきではないでしょうか。	研究者
9-1	望ましい交通アクセスの検討	若い人は車を持っていないことが多く、アクセスの悪い檜枝岐には来にくい。	宿泊業関係者
9-2	望ましい交通アクセスの検討	戸倉～大清水のアクセスが不便だと思うので改善した方がよい。	宿泊業関係者、一般利用者
9-3	望ましい交通アクセスの検討	多様な主体の参加と連携促進 田代山や帝釈山の山開きの際に、バスの時間を合わせるなど連携して縦走できるようにできたらよいと思っている。	観光協会
9-4	望ましい交通アクセスの検討	交通弱者の利便性を高めることが重要。	観光協会
9-5	望ましい交通アクセスの検討	片品村戸倉の駐車場は、檜枝岐村御池の駐車場みたいに宿泊客は無料にならないだろうか。	宿泊業関係者
9-6	望ましい交通アクセスの検討	尾瀬への早朝のアクセスを良くして欲しい。	一般利用者
9-7	望ましい交通アクセスの検討	顧客からの声としては尾瀬へのアクセスに関するものが多い。公共交通機関では行きづらい、自動車で行くと渋滞に巻き込まれる、といった意見。	アウトドア業界関係者
9-8	望ましい交通アクセスの検討	尾瀬へのアクセスが悪い。これを改善する必要がある。	宿泊業関係者
9-9	望ましい交通アクセスの検討	御池から沼山峠への一般車乗り入れができず不便を感じている。尾瀬が遠くなってきている。	宿泊業関係者
9-10	望ましい交通アクセスの検討	認知度の向上 首都圏の人は、尾瀬を遠いところと思っている人が多い。実際、首都圏から尾瀬へのアクセスの良さがしっかりPRできていない。	マスコミ関係者
9-11	望ましい交通アクセスの検討	登山口の駐車場・乗合バス代を含めて一部分の方には利益かもしれないが、利用者はすぐ尾瀬ヶ原に行けると思っている。	宿泊業関係者
9-12	望ましい交通アクセスの検討	交通の便が悪い。沼山峠発15:30.16:00.16:30.17:00位のバスが欲しい。奥只見船も便を増やして欲しい。選択肢が増えた方が利用しやすい。	宿泊業関係者
9-13	望ましい交通アクセスの検討	多様な主体の参加と連携促進 船着き場から御池までの輸送連携に課題を抱えている。もっと頻度高く人を送ればと考えている。	交通事業者
9-14	望ましい交通アクセスの検討	認知度の向上 魚沼から船で入るルートは、まだまだ認知度が低い状況である。しかし、分散化に繋げるためにも、新規入山者だけでなく尾瀬のリピーターにも違った表情の尾瀬を楽しんでいただきたいと思う。	尾瀬サミット
9-15	望ましい交通アクセスの検討	魚沼ルートの利用者が増えにくい要因の一つは、1週間前の完全予約性にもあると思う。	交通事業者
9-16	望ましい交通アクセスの検討	国道352号をちゃんと整備し、別ルートで群馬（沼田）に通さないと尾瀬に来る人は増えない。	請負業者
9-17	望ましい交通アクセスの検討	御池～尾瀬戸倉までのバスがあるといい。	一般利用者
9-18	望ましい交通アクセスの検討	多様な主体の参加と連携促進 新宿から檜枝岐までの直通便ができればと考えているが、それには色々な所との連携が必要である。	交通事業者
9-19	望ましい交通アクセスの検討	戸倉まで夜行バスで来ましたが、戸倉から鳩待峠へのバス休憩が気になりました。スムーズに鳩待峠まで来れたらいいと思います。	一般利用者
9-20	望ましい交通アクセスの検討	魚沼から行く尾瀬は、移動時間がかかり過ぎて歩き出しの頃には既に疲れている。乗り継ぎなしの一本化というのがないと便利。帰りはぐっすり休めるというメリットがある。	宿泊業関係者
9-21	望ましい交通アクセスの検討	現行の戸倉～鳩待峠間のバス料金が高く、利用者にとっては負担である。	尾瀬サミット、宿泊業関係者
9-22	望ましい交通アクセスの検討	戸倉～鳩待峠間無料シャトルバス運行（宿泊者に限り）	宿泊業関係者
9-23	望ましい交通アクセスの検討	交通体制整備（交通費の検討、利便性向上）	宿泊業関係者
9-24	望ましい交通アクセスの検討	日光～片品エクスプレス号は、効果が徐々に出て来た印象。2次交通として推進していきたい。	観光協会
9-25	望ましい交通アクセスの検討	上毛高原から尾瀬に向かうバスが2時間近く乗車するが大変乗り心地が悪い。もう少し大きいシートの良いバスを走らせて下さい。	一般利用者
9-26	望ましい交通アクセスの検討	東京内→御池直通バス（往復四季以外）が再び運行されるようになると会津駒ヶ岳に行きやすくなります。公共交通機関で帝釈山・田代山・台倉高山の登山口にオサバ草以外の夏に行けると嬉しいです。	一般利用者
9-27	望ましい交通アクセスの検討	人口減少や登山人口の減少などにより、これから更に入山者が減少することを危惧している。入山者が減っているのは、多くの方が車で簡単に行ける場所（観光地）に行くようになったからではないか。	地域住民
9-28	望ましい交通アクセスの検討	尾瀬ヶ原へアクセスしやすい方にして欲しい。尾瀬に車道を通して欲しい。	地域住民
9-29	望ましい交通アクセスの検討	バスの運行に関する改正の影響から、大清水から入る尾瀬沼への日帰りバスツアーの実施は、より不可能となってしまった。	旅行業関係者
9-30	望ましい交通アクセスの検討	マイカー規制が始まってから利用者が減った気がする。団体客も少なくなった。	地域住民
9-31	望ましい交通アクセスの検討	高速バスの規制などの問題から本数が減った。入山者の減少の一因ではないかと思う。	宿泊業関係者、交通事業者
9-32	望ましい交通アクセスの検討	乗合バス代や駐車場代が高くなっていることも入山者が減っている一因ではないかと思う。	宿泊業関係者